

街の樹木

公園・緑地の自然再生シリーズ

第4回

初夏編



生きものの賑わいを保つ管理

高中木管理と豊かな自然の活用

緑地管理には病虫害への対策が欠かせませんが、
生き物たちの力を借りることで、
自然と調和した管理方法が可能です。

01

生き物たちの力も活用しよう

緑地内では、例えば、クモやカマキリ、ツバメやキツツキなどが餌を捉えることで、植栽や人に病気を持ち込む害虫を減らすことができます。特に大型の鳥やトンボ、ハチ、カエルが活動しやすい環境を整えると、困った生き物が大量発生しても短期間で落ち着きます。

病虫害対策は、薬剤が必要な場面もありますが、自然の仕組みを活用することも大切です。剪定や草刈りのパターンを変えて上手に行えば、生き物が棲める環境にもバリエーションが生まれ、植物が元気に育ち、緑地全体の健康を守ることにつながります。

いろいろな
生きものが
暮らせるような



バランスのよい
管理を目指して…

02

剪定で病害虫を抑えるコツ

病害虫の被害が出やすい箇所は毎年決まっていることが多いため、まず被害が出る植物を特定し、皆で共有します。また、被害の拡大を抑えるには剪定のタイミングが大切です。緑地の中で毎年最初に被害が出る木を把握・チェックし、その季節の最初に剪定を始めることで、病害虫の広がりを防ぐことができます。また生垣などは枝が混みすぎないように隙間をつくることで、シジュウカラなど小さな鳥が飛び込んで餌を取りやすくする効果もあります。



03

高木管理の生きものへの配慮

管理作業のちょっとした気遣いで、生きものたちが生活しやすくなります。

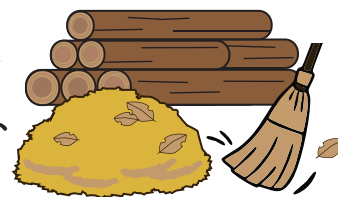
例

4月～5月は多くの鳥が巣作りと子育てをするハイシーズン。親鳥が安心してタンパク質（虫）をあつめ、害虫を餌にヒナがたくさん育つよう、この時期の高木の剪定は避けましょう。



枯枝や枯木、樹木の空洞は生き物の子育て部屋や越冬場所として利用されることが多くあります。人や施設に危険が及ばないかどうかの条件を見分け、問題がなければそのまま見守りましょう。

剪定した枝や伐採した幹材、掃き集めた落ち葉はその場所で樹が生産したエネルギーの塊です。繁殖力の強すぎる樹種や伝染性の問題を抱えた発生材でなければ、持ち出さず、その場に上手に堆積して植物の栄養に還元させましょう。



公園・緑地の植栽点検・講習のご依頼は株式会社エコルまで！



みどりをつなぐ みどりでつなぐ

発行元 株式会社エコル

東京都港区南麻布3-20-1 Daiwa 麻布テラス 4F

03-5791-2901 03-5791-2902

過去の記事も確認できます！

都市樹木研究室の
HPのQRコードは
こちらから

